



平成 20 年 10 月 17 日

各 位

会社名 株式会社 阿波銀行
代表者 取締役頭取 岡田好史
(コード番号 8388 : 東証第一部、大証第一部)
問合せ先 取締役総合企画部長 平岡 悟
電話番号 (088) 623-3131

平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 5 月 15 日に公表しました平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)及び通期(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 単体業績予想の修正

(1) 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間(平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日) (単位：百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	31,300	7,900	4,500
今回修正予想(B)	31,200	1,500	1,400
増減額(B-A)	△ 100	△ 6,400	△ 3,100
増減率	△ 0.3%	△ 81.0%	△ 68.8%
前中間期実績 (平成 20 年 3 月期 中間期)	32,163	8,646	3,981

(2) 平成 21 年 3 月期通期(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	61,800	14,300	8,300
今回修正予想(B)	61,800	6,000	3,900
増減額(B-A)	—	△ 8,300	△ 4,400
増減率	—	△ 58.0%	△ 53.0%
前期実績 (平成 20 年 3 月期)	64,018	15,591	8,299

2. 連結業績予想の修正

(1) 平成21年3月期第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	39,400	8,300	4,500
今回修正予想(B)	39,500	1,800	1,500
増減額(B-A)	100	△6,500	△3,000
増減率	0.2%	△78.3%	△66.6%
前中間期実績 (平成20年3月期 中間期)	40,532	9,398	3,983

(2) 平成21年3月期通期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	77,900	15,400	8,400
今回修正予想(B)	78,000	6,600	4,000
増減額(B-A)	100	△8,800	△4,400
増減率	0.1%	△57.1%	△52.3%
前期実績 (平成20年3月期)	80,505	16,380	8,283

3. 業績予想の修正理由

(1) 単体

米国金融市場の混乱を受け、有価証券の減損処理等を実施すること、また、景気の後退感が強まるなか、予防的に貸倒引当金の積み増しを実施することなどにより、経常利益及び純利益について、第2四半期累計期間、通期ともに当初予想を下回る見込みとなりました。

なお、配当につきましては、年間7円(中間期3.5円、期末3.5円)を予定しており、変更はございません。

(2) 連結

主として銀行単体の業績予想の修正に伴うものです。

なお、平成20年9月末の連結自己資本比率につきましては、引き続き11%以上の高い水準を確保できる見込みです。

[ご参考]平成21年3月期第2四半期累計期間の業績の予想(単体)

(単位：億円)

	前回予想 (A)	今回予想 (B)		前中間期 実績
			比較(B)-(A)	
経常収益	313	312	△ 1	321
業務粗利益	244	211	△ 33	232
うち資金利益	211	209	△ 2	207
うち役員取引等利益	32	26	△ 6	33
うちその他業務利益	0	△ 24	△ 24	△ 7
経費(臨時処理分を除く)	148	147	△ 1	145
コア業務純益	96	90	△ 6	96
一般貸倒引当金繰入額	△ 4	8	12	△ 15
業務純益	100	56	△ 44	102
不良債権処理額	19	43	24	21
有価証券関係損益	0	△ 20	△ 20	△ 4
経常利益	79	15	△ 64	86
特別損益	0	9	9	△ 11
中間純利益	45	14	△ 31	39
与信費用合計	15	51	36	5

1. 主な増減要因

(1) コア業務純益

資金利益につきましては、預貸金が順調であることから堅調に推移しておりますが、役員取引等利益につきましては、証券市場の低迷の影響から投資信託等の販売が伸び悩んだことにより、前回予想を下回る見込みです。この結果、コア業務純益は、前回予想を6億円下回る見込みです。

(2) 経常利益および中間純利益

米国金融市場の混乱に伴う外国証券の価格下落を受け、債券の減損処理及び売却を実施したことから、有価証券関係損益は前回予想から20億円悪化する見込みです。また、景気の後退感が強まるなか、取引先の業況変化に対応して予防的に貸倒引当金の積み増しを実施したことから、与信費用は前回予想から36億円増加する見込みです。この結果、前回予想から、経常利益は64億円、中間純利益は31億円下回る見込みです。

2. 有価証券評価損

平成 21 年 3 月期第 2 四半期末の「その他有価証券評価損」の内訳は以下のとおりです。

国債等債券評価損	21 億円
株式等評価損	1 億円
合 計	22 億円

(ご参考)

1. 当行は、「その他有価証券」で時価のあるものについては、時価が取得原価に比べて 30%以上下落したものはすべて減損処理を行っております。
2. 上記減損処理後の「その他の有価証券」の評価差額は、146 億円(速報値)の評価益であります。
3. 上記国債等債券評価損には、9 月 16 日に公表いたしましたリーマン・ブラザーズ・ホールディングス・インクが発行した債券(11 億円)を含んでおります。

以 上

(注) 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

なお、平成 21 年 3 月期通期の業績予想につきましては、金融市場の変動が大きいことから中間期末(平成 20 年 9 月)の市場環境を基に予想いたしております。